

# JA全農みえ南勢茶センター 初市 最高3万5880円

取引が成立し、手締めを行う茶商ら  
(20日、三重県大台町で)



【三重】大台町のJA全農みえ南勢茶センターは20日、「伊勢茶」の新茶初取引を行った。同町や大紀町の農家5戸が17点1600円のJA伊勢が購買した。1斗当たり平均価格は9326円で、最高価格は同3万5880円。今年の生育は、3月の気温が平年より少し高めだったことなどが

ら順調に進み、昨年より5日早い初市となった。茶園の状況は霜害もなく、良好な品質の茶がそろった。

取引はJAや県内茶商らが参加した。そろばんを手にした同センター職員の手立ちで売り手、買い手が交渉を進めた。商談がまとまると、3回手をたたき「手締め」の音が会場に響いた。

全農みえ農産部の大瀬憲一郎は「物価上昇などの厳しい情勢の中、新しい販路の拡大や生産基盤の構造改革に、茶業界で一致団結して取り組んでいきたい」と話す。

一番茶の出荷は5月上旬がピーク。同センターの角谷悟所長は「今年は天候にも恵まれ、良いスタートが切

れた。生産者には今まで以上に品質を重視してもらい、皆さんにおいしく新茶を飲んでいただきたい」と話す。

## 「伊勢茶」順調 早い刈り取り

度会・大紀町

【三重・伊勢】度会町と大紀町で19日、新茶の刈り取りが始まった。



茶葉を刈り取る西さん

た。大紀町滝原の西央隼さん(78)の茶園約4畝では、約100斗の茶葉を刈り取った。今年は3月に気温が上昇したことや、適度に雨を受けたことで順調に生育。昨年より3日ほど早い刈り取りとなった。

刈り取った茶葉は製茶され、20日にJA全農みえ南勢茶センターで開かれた初市で取引された。本年度産について、西さんは「気温や降雨に恵まれた他、凍霜害の影響も受けなかったことから、順調に生育した。『伊勢茶』の特徴である深みのある味わいを楽しんでほしい」と話す。